

法然上人のご法語 第二十 難修観法

ちかごろ ぎょうにんかんぼう

近來の行人観法をなす事なかれ。仏像を觀ずとも、

運慶・康慶が造りたる仏ほどだにも觀じ現わすべか

しゅういん

らず。極樂の莊嚴を觀ずとも、桜梅桃李の花菓ほど

ようばいとつり

けか

も、觀じ現わさんこと、難かるべし。

かた

「彼の仏、今現に世に在して成仏し給えり。当に知

か

まじ

まな

るべし、本誓の重願、虚しからざることを。衆生称

ほんぜい

じゅうがん

念すれば、必ず往生を得」の釈を信じて、深く本願

う つぎ

を頼みて、一向に名号をを称うべし。名号を称うれ

ば、三心、自ずから具足するなり。

さんしん

・運慶

法然上人とほぼ同時代に活躍した仏師。康慶はその父。



阿弥陀如来像（浄楽寺）



無著像（興福寺）